

世界かんがい施設遺産

うわえようすいろ

上江用水路

[新潟県・上越市・妙高市]

Uwae Irrigation Canal

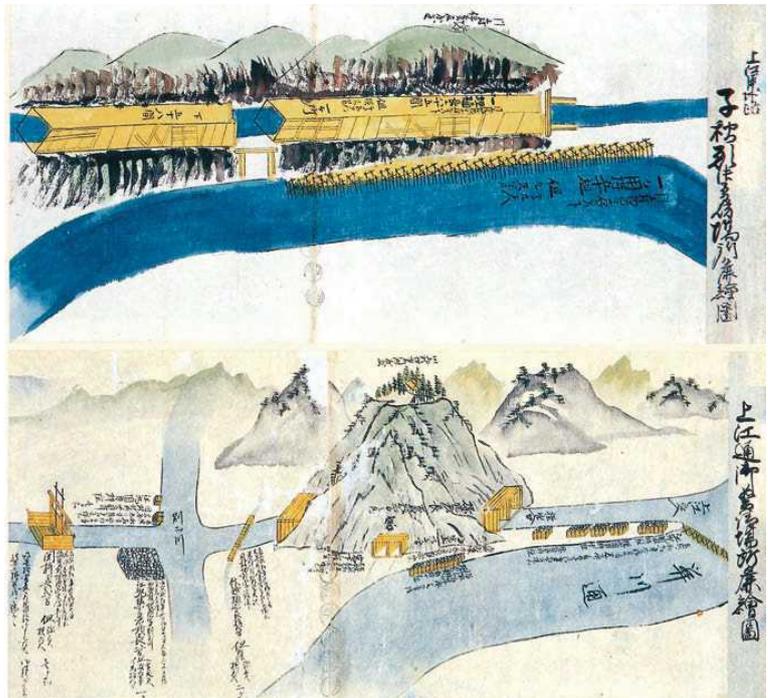
130年間に及ぶ
プロジェクトで実現した
高品質米の一大産地



- この地域は、非常に高品質な米が作られる場所として全国的に有名。だが、上江用水路建設以前は、収穫期までの水の確保が困難。
- 1573年からの水路建設には、農民自らの計画と資金で少しずつ進捗。指導者は新たな村の名前となったり仏像が作られたりして今でも崇拜。
- 日払いの賃金が払われるほど難度高い危険なトンネル工事であったが、高度な技術による誤差はわずか。水路完成により12,000人の食糧供給が実現。

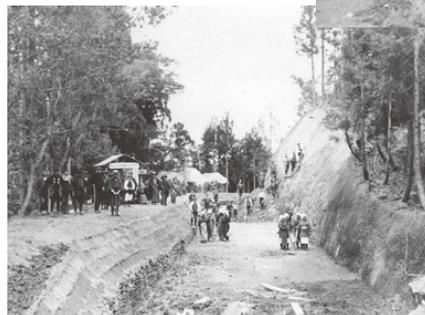
【世界水遺産】

■関川水系土地改良区は、「関川水系土地改良区と客水地区賦課金減免制度」として、通称客水地区の上流と下流の農民が協力して用水を開削し管理を行ってきたこと、そしてその協力体制を340年間、用水組合～普通水利組合～土地改良区が継ぎ・継続してきたことが評価され、世界水遺産としても認定されています。



建設時のトンネル絵図

1931年頃の川上隧道



米増地内の
上江用水改修工事の様子
1915年（大正4年）



指導者の仏像

問い合わせ先 関川水系土地改良区 TEL.025-522-5722

上江用水路見どころポイント〔上江用水記念公園〕



上江用水の由来

上江用水は、今から約四百年前の天正年間、農民の真摯な要望により開削された用水路です。妙高山群を水源とする母なる関川の水を、この地川上に於て堰止め、現在の吉木新田・新保・西条の三集落の用水開削が上江用水路の基でした。その後、寛文年間に吉木村から米増村迄の五集落の用水路の掘り継ぎが行われました。

元禄年間に入ってから第二期の開削事業となり、山部村から深沢村までの十四集落を大熊川・別所川・雁平川を越える難工事を経て掘り継ぎました。

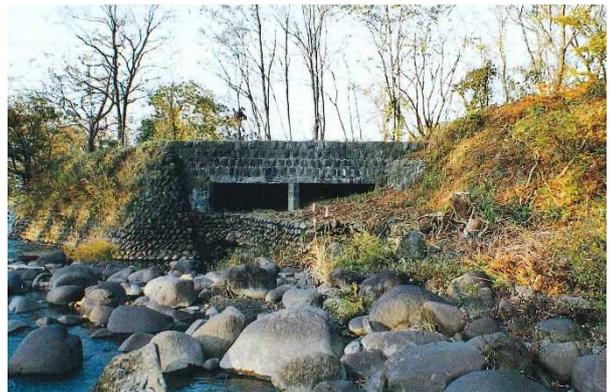
安永年間になってから第三期工事に入り、世紀の大事業とも言われる三丈掘の難工事を完工し、櫛池川・飯田川を越えて長岡村迄、四十一集落を灌漑する大用水路が完成しました。この大事業の基本は、自普請として、長い歳月を経て掘り継いだ用水路です。

かくて延長六里拾余町(約二十六km)、三千町歩(約三、〇〇〇町)の農地を潤す県下屈指の大用水となりました。この間、約百三十有余年の歳月を費すと共に、数万人の先人達の汗と努力の結晶によって完成したものです。

近代に入ってから、電力会社が豊富な関川の流量を利用して十数か所の水力発電を起工し、これによって鳥坂発電所からの放流水が上江・中江両用水の主流となりました。まさに農業用水と電力用水の共存共栄の範となりました。

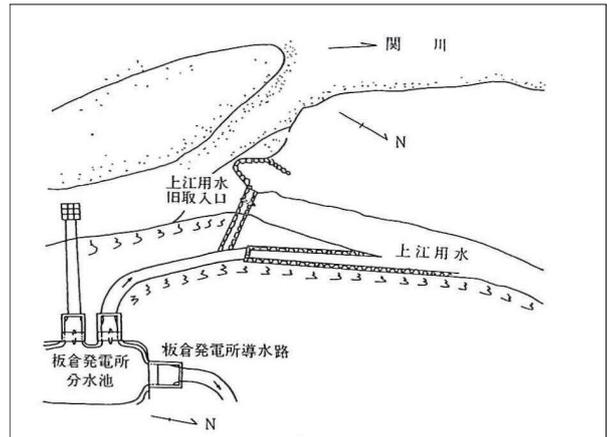
昭和五十八年完成した笹ヶ峰ダムは、十五年の事業歳月を経て、関川上流の笹ヶ峰に関川地区土地改良区連合の協調のもと、国営事業によって一、〇〇〇万トン貯留の農業用水ダムであり、このダムから、農業用水と電力用水の調整配分を行っています。

上江用水史発刊を記念して水稲生産の母なる上江用水路の旧取入口地点に記念碑を建立し、先人の偉業を偲び後世に伝えます。



上江用水路旧取入口

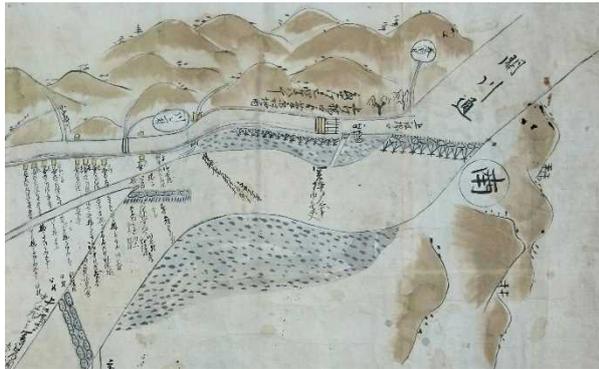
国営事業で昭和55年に用水路が改修されるまで使用されていた。(図は国営事業実施前の取水口の状況図)



現在の取水取入口

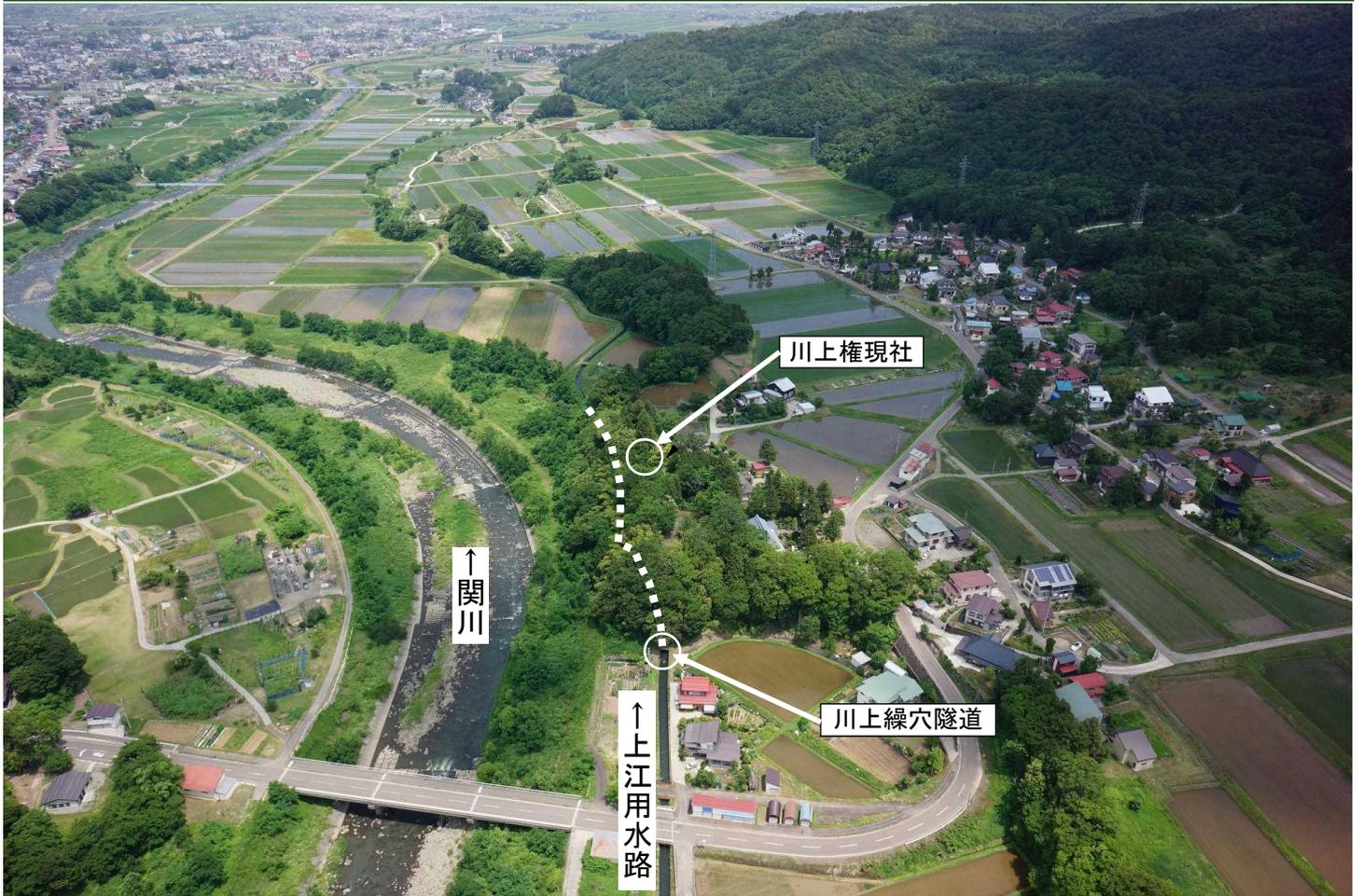
〔東北電力株の分水池〕

- 右ゲートは隧道で板倉発電所経由で上江用水路と中江用水路へ
- 中ゲートは上江用水路へ
- 左ゲートは余水吐(関川)へ



明和九年(一七七二年)作成の上江用水路取入れ口の絵図

上江用水路見どころポイント〔川上隧道・川上権現社〕



川上線穴隧道

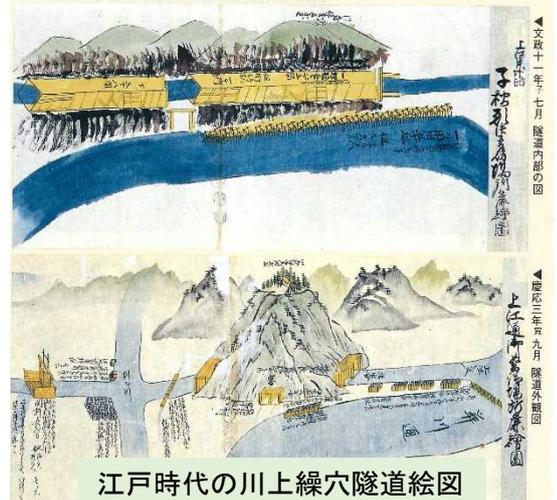
開削当初、関川沿いにあった上江用水は、関川の氾濫のたびに流失し、通水に支障を来していました。そこで1810年川上集落の大地主だった松岡伊右衛門(まつおかいえもん)方にお願ひし同人の屋敷の下に、線穴隧道(トンネル)を掘削しました。

個人の屋敷下に水路を通すという発想は、当時は革新的であり上江用水を安定的に通水したいという情熱の表れであります。

当時の工事概要は、幅約3.3m、高さ1.7mの馬蹄形で、長さは220m、工事動員数は4,280名、費用は約金122両(追加:現在の金額に換算すると約1,586万円)でした。

線穴隧道完成後、1世紀を超える年月が経ち1931年、豪雨災害により隧道内部が崩落したことから大規模な復旧工事が行われました。近年になり、国営工事で、この隧道(トンネル)の詳細調査をしたところ、歪みもなく、また、内部補強の必要もなかったことから、当時の高度な土木技術がうかがえる施設です。

川上村地内伊右衛門屋敷下の線穴普請願の計画図



江戸時代の川上線穴隧道絵図



川上線穴隧道内部の様子



川上権現社

この工事は、山をくり貫く難工事であったことから工事の安全を祈願して川上権現社が建立されました。毎年4月21日には地元町内会によって厳かに例祭が執り行われています。

上江用水路見どころポイント〔板倉地区〕



清水又左衛門

板倉地区における上江用水の掘り継ぎ功労者が清水又左衛門である。

又左衛門がこの掘継ぎ工事にかかわるようになったのは、父親の又右衛門が延宝年間（一六七三から一六八一年）の中江用水の開削の際に「勘定書役」として活躍したことと関係があったと思われる。

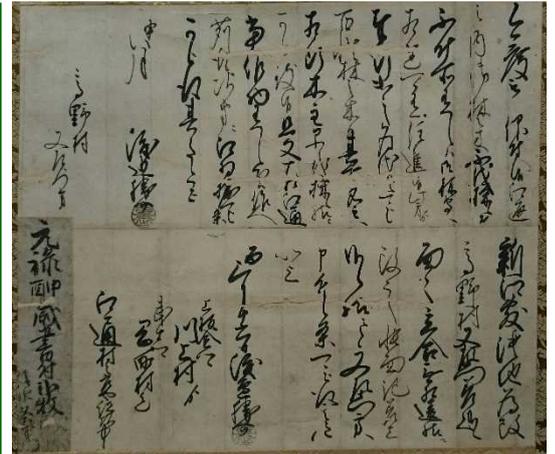
又左衛門は上江用水掘り継ぎの功績が認められ、高田藩主より高二十石の土地を与えられている。

清水又左衛門は上江掘り継ぎの元締となり、親子二代にわたって中江・上江両用水の開削に貢献した。

清水又左衛門地蔵尊

清水又左衛門は亡くなってからも永く農民に慕われ、その遺徳を敬し、農民から清水家に石仏が贈られ、現在でも清水家の庭で大切に保存されている。

この石仏は、上江用水路の工事中に勘定書役として忙しい日々を物語るかのように右手に筆を、左手に帳面を持つ珍しい石仏で、背面には「宝暦二年六月二日、釈官江」と刻まれている。又左衛門が没した元禄七年（一六九四年）から五十八年後のものである。



清水家に残されている古文書

当時の代官設楽孫兵衛の手代と思われる渡辺勝介なる人物が用水掘り継ぎに当たって発したもので、極めて貴重な記録である。

写真の上の書付けは、用水開削の妨げとなる樹木の伐採を命じたもので、次のように記されている。「伐採しなければ用水開削の妨げとなる樹木があったら、御林の木は御林守へ断つて当方へ注進すれば奉行を遣わして伐らせる。百姓林の木はその所の名主へ断つて木主に早々伐らせるようにする。江通りの作物は作人が刈取り次第に江掘りに取りかかせるように」と命じている。名宛人の高野村又左衛門は、この掘継ぎ工事の現場総監督のような地位にあった人物で、用水掘り継ぎに多大の貢献をしている。

写真下の書付けは、新江敷の潰地改めの帳面提出を右の又左衛門に命じたことを、川上村より岡野町村までの江通村々の庄屋・組頭に通知し、協力を求めたものである。



現在はこんな光景も
(上江用水路と北陸新幹線)



2012年3月板倉区国川地内の地すべりで上江用水路が被災。迅速な対応により、翌年度に復旧工事が完成

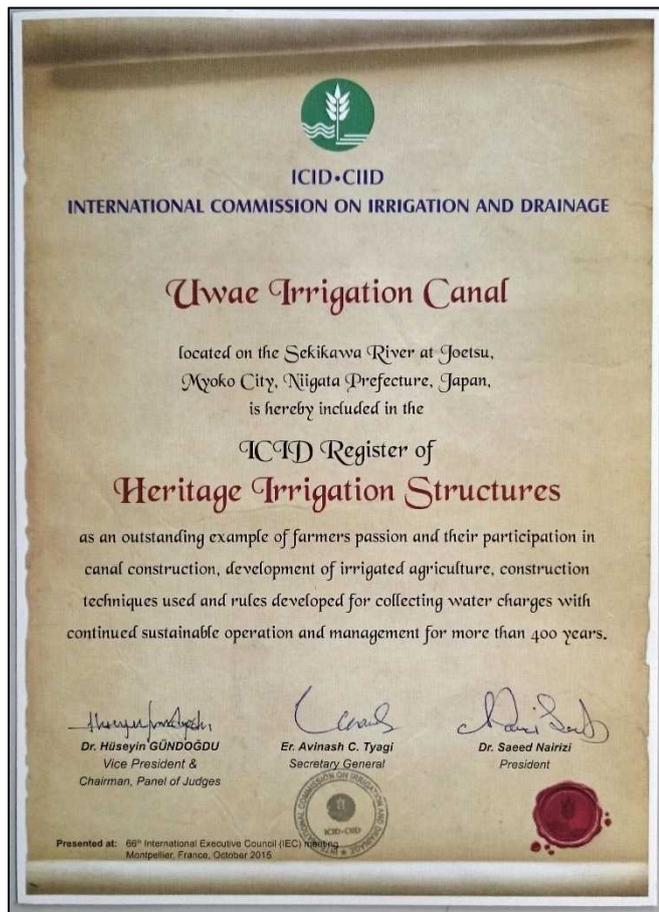


1915年上江用水路の改修工事(米増地内)

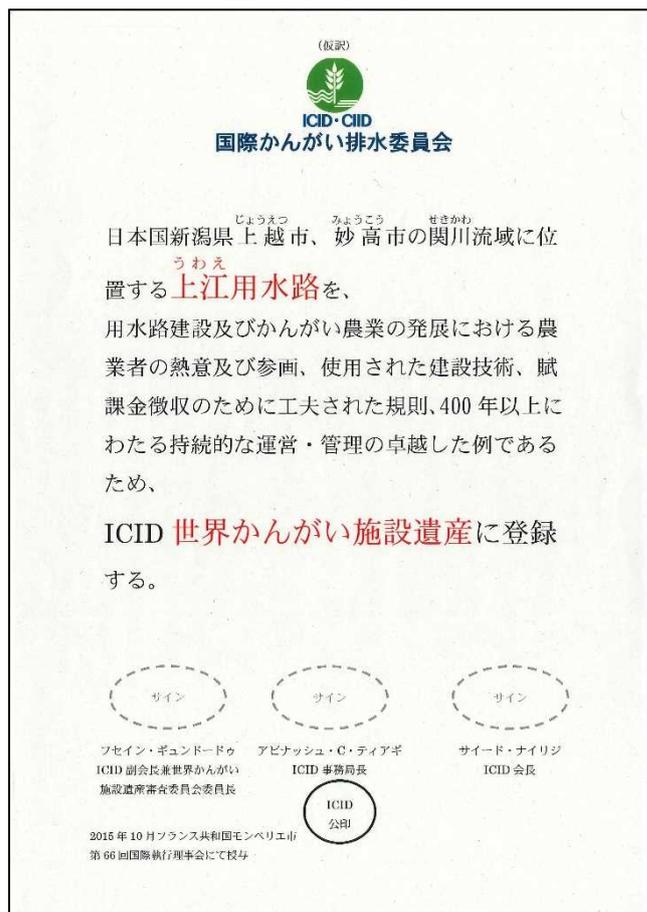
災害に悩まされた山腹水路
(上江用水路)

登録証と伝達式の様子

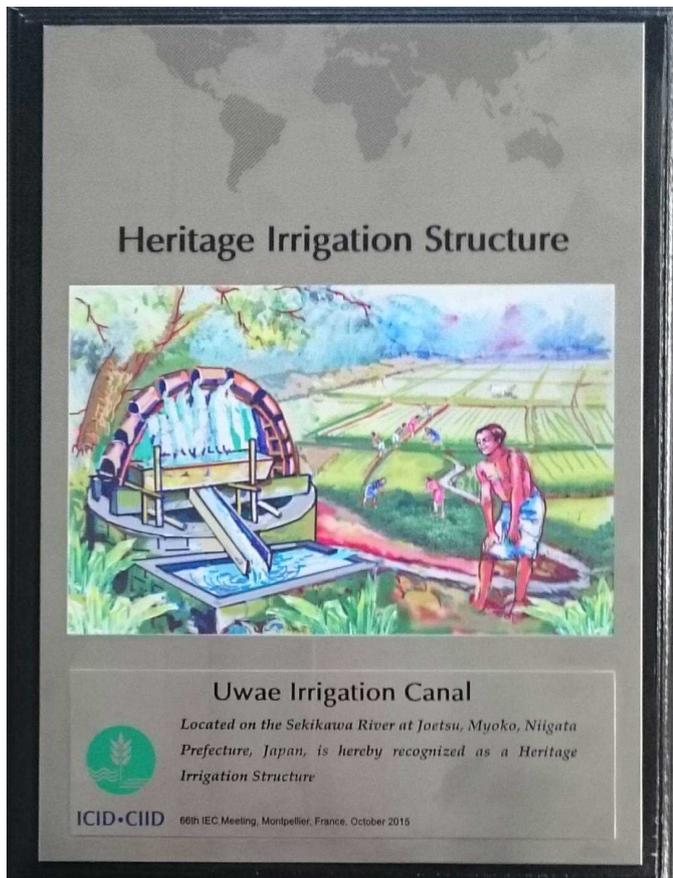
登録証



登録証(和訳)



記念盾



伝達式(H27.11.26)

